

2023 年度 春夏学期

授業改善アンケート調査結果

大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科

大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科 評価委員会

授業改善アンケート調査結果

1. 授業改善アンケートの概要

人間科学研究科では、2004年度より、毎学期末に授業に関して受講生に尋ねるアンケートを実施している。講義科目を対象に授業内でマークシート用紙の配布・回収により実施していたが、2016年にグローバル30人間科学コース（以下、G30）、2017年度には、講義科目以外の演習、実習、研究も対象科目となった。2020-2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から授業がオンライン化したことをうけ、QRコードを利用した非接触型のWEB方式に切り替えたが、WEB方式での回答率の低さを改善すべく、2022年度春夏学期からは、すべてマークシート方式に変更した。

2022年度春夏学期アンケート回答期間：2023年7月7日（金）～8月8日（火）

対象科目は、人間科学部・人間科学研究科で実施されている講義、演習、実習、研究を含む全科目である。講義科目と講義以外の回収率は以下の通りである。なお、講義科目および講義以外の科目について、対象科目数・回答数と科目群ごとの内訳を記す。受講登録者数に対する回収率は、72.2%であった（参考：2022年度春夏学期72.2%、同年度秋冬学期71.8%）。

2023年度春夏学期授業改善アンケート 講義科目
対象科目数・回答数

		対象科目数	回答数
学部科目	共通科目	12	576
	行動系科目	26	216
	社会人間系科目	16	242
	教育系科目	26	295
	共生系科目	18	176
大学院科目	共通科目	5	22
	行動系科目	29	138
	社会人間系科目	13	59
	教育系科目	29	136
	共生系科目	13	76
G30科目		16	122
計		203	2058

回収数 2058 / 受講登録者数 2822 = 回収率 72.9%

- ※1 基礎科目は、行動・社会人間系・教育・共生系科目に割り振られている。
 ※2 受講登録者数は、アンケートが実施された科目についての数値である。

回収結果は数値化して集計し、自由記述分も含めて教員にフィードバックされている。さらに 2010 年度後期より、授業担当教員からアンケート結果を踏まえて授業の振り返りのコメントの提出を求めており、次回の授業の改善に役立てられている。

2. 授業改善アンケートの結果

2020-2021年度は、全科目をアンケート実施対象科目とし、QRコードを利用した非接触型のWEB方式に切り替えたが、WEB方式での回答率の低さを改善すべく、2022年度よりすべてマークシート方式に変更した。その結果、2023年度春夏学期の授業改善アンケート回収率72.2%となり、2021年度春夏学期の22.9%から49.3ポイントと大幅に上昇した。2023年度秋冬学期の回収率は、72.9%とさらなる改善をみせた。

主要な質問項目である、授業の満足度についての問10「この授業は全体として良い授業だったと思いますか？」(1~5の範囲で数値が高いほど高評価を意味する)については、平均が4.39と高い数値ではあるが、前年度4.50よりも減少している。問9「この授業で学問的知識が身についたと思いますか？」についても、「強くそう思う」と回答している学生の割合が僅かに減少している(41.6%→36.4%)。このことから、専門的知識の習得を求める学生の要望に応え、満足度の向上につながるような改善が必要と考えられる。

満足度に関する問10以外の質問項目の概要は、以下の通りである。

問1の「この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？」に関しては、「80%以上出席」が87.9%(87.5%)と前年度並みに高い値となったが、2021年度秋冬学期94.6%よりも減少している。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からオンライン授業が中心であった2021年度の結果と、対面授業やブレンDED授業へと徐々に移行してきた2022年度以降の結果は、単純に比較できないとはいえ、出席率の向上が今後の課題である。問2の「この授業の予習・復習にあてた1週間あたりの平均時間はどれくらいですか？」については経年変化を見ているが、今回「ほとんどなし」と答えたのは22.5%となり、前年度の11.6%から大幅な改善をみせた。この点に関しては、オンライン授業が中心となった2020-2021年度のあいだに授業外学修にかんするさまざまな対策・工夫がなされたことが窺われるとともに、効果が発揮されているといえる。

また、授業内容の難易度を尋ねる問3「授業の内容の難易度はどうでしたか？」に対しては「適切」という回答が70.8%(前年度70.2%)と前年度並みの数値となった。ただし、授業内容の理解度を尋ねる問4「授業内容はよく理解できましたか？」に対しては「強くそう思う」が19.5%(前年度23.6%)、授業方法の工夫等を尋ねる問8「授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？」は「強くそう思う」が39.7%(前年度47.2%)といずれも前年度よりも減少している。これらの項目は、問9の学問的知識の習得および問10の満足度とも結びついていることから、授業で扱う題材選定や授業の進行形式についてさらなる改善が求められる。

以下より、2023年度春夏学期の授業改善アンケート結果の詳細を示す。

※学系別集計については以下のように集計している。

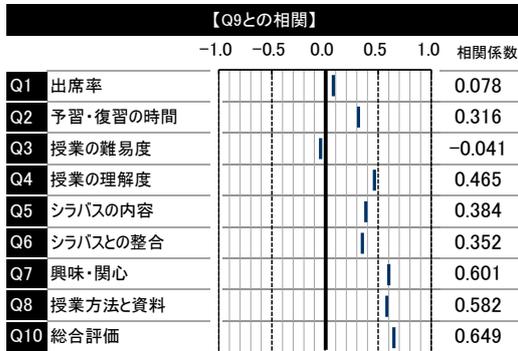
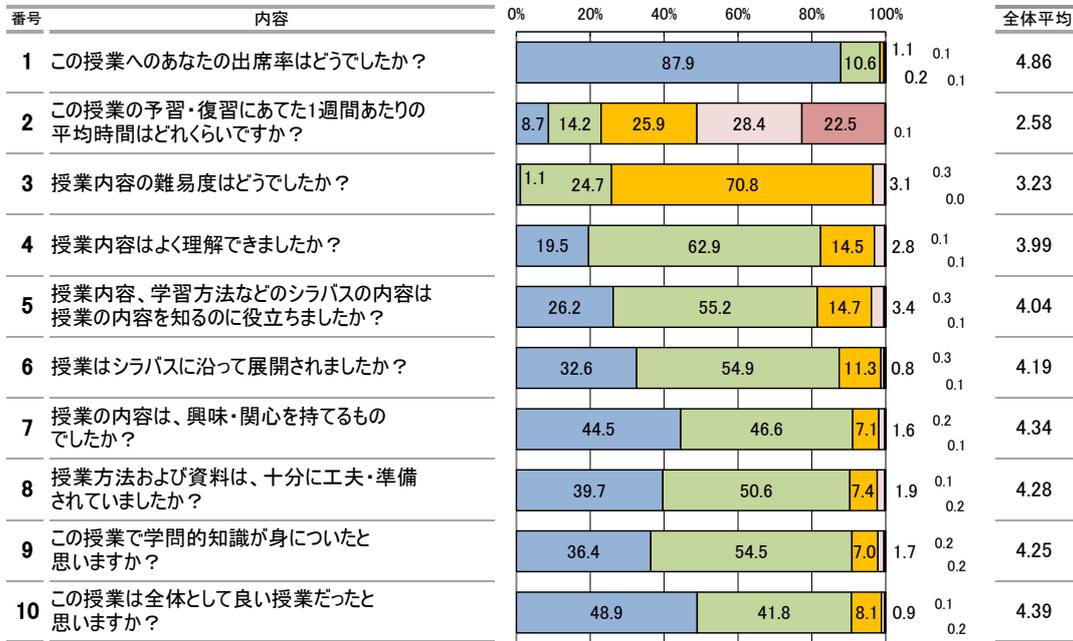
- ・自由回答項目については除かれ、選択式の設問について集計されている。
- ・学系別集計は、学部科目については各科目が属するカテゴリーごとに集計を行った。大学院科目については、回答数が少ない学系があるため一括して集計を行った。
- ・豊中キャンパスで開講される基礎科目は、行動・社会・教育・共生科目に割り振られている。
- ・学系の共通科目は、学系別集計に含めていない。

- ・各学系によって1科目あたりの受講者数などの状況が異なるため、科目群間でアンケート結果を単純に比較できない点に留意する必要がある。

授業改善アンケート

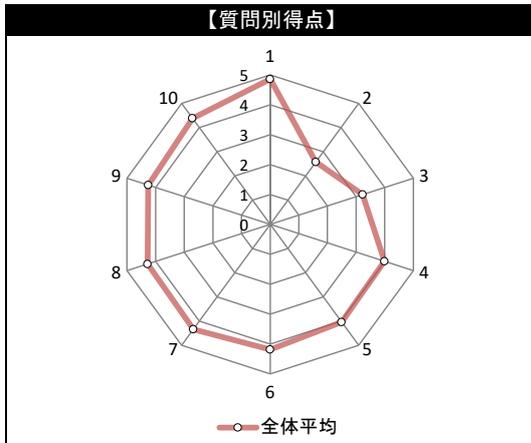
大阪大学 人間科学部・人間科学研究科
2023年度春学期

全体集計	履修者数	2822
	回答数	2058
	回答率	72.9%



回答凡例	5	4	3	2	1	-
配点	5	4	3	2	1	-
質問1	80%以上	60~80%	40~60%	20~40%	20%以下	
質問2	3時間以上	1.5時間~3時間	30分~1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易すぎる	
質問4~9	強く思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全く思わない	不明(無回答を含む)
質問10	非常に良かった	まあ良かった	普通	あまり良くなかった	良くなかった	

相関係数は±1に近いほど関係が強く、0に近いほど弱いことを意味します。プラスは正の相関関係、マイナスは負の相関関係です。総合評価であるQ9とQ10はどの項目と関係が深いのか、授業の何を改善すればよいのかの参考値として下さい。相関係数の「-」は計算不能を示します。(例: 回答者全員が同じ回答、回答データが1件のみなど)



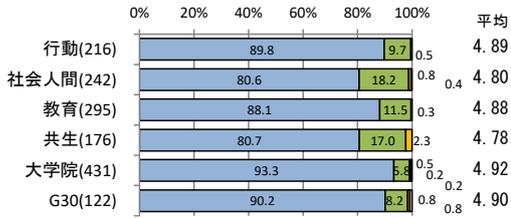
大阪大学 人間科学部・人間科学研究科
授業改善アンケート 2023年度春学期

学系別集計【全体】

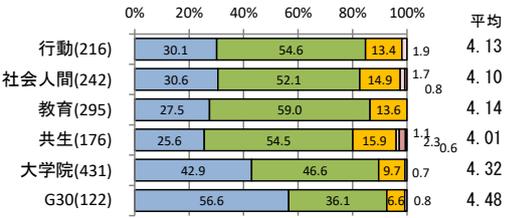
※グラフ内数字は回答率（％）

回答凡例	5	4	3	2	1	-
配点	5	4	3	2	1	-
質問1	80%以上	60~80%	40~60%	20~40%	20%以下	
質問2	3時間以上	1.5時間~3時間	30分~1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	不明(無回答を含む)
質問4~9	強く思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全く思わない	
質問10	非常に良かった	まあ良かった	普通	あまり良くなかった	良くなかった	

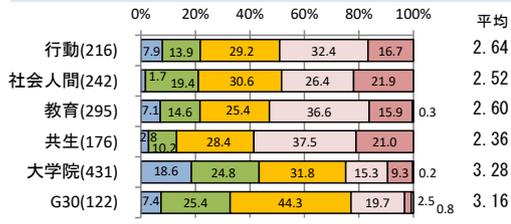
1. この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？



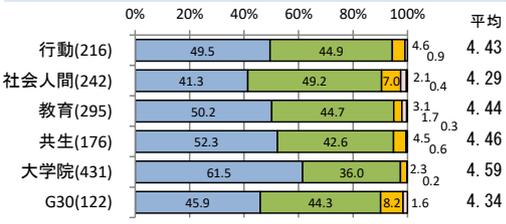
6. 授業はシラバスに沿って展開されましたか？



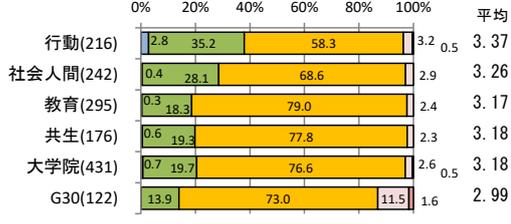
2. この授業の予習・復習にあてた1週あたりの平均時間はどれぐらいですか？



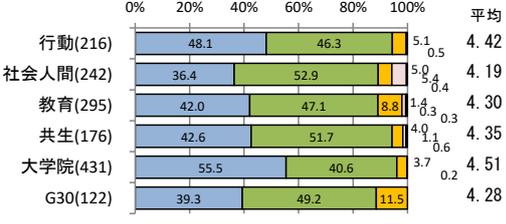
7. 授業の内容は、興味・関心を持てるものでしたか？



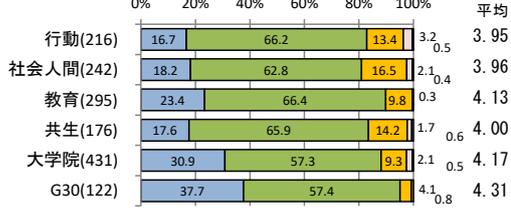
3. 授業内容の難易度はどうでしたか？



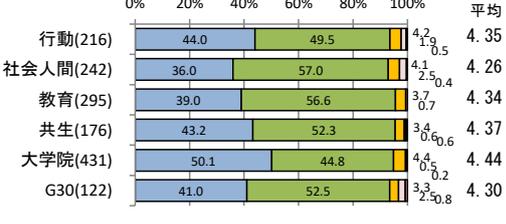
8. 授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？



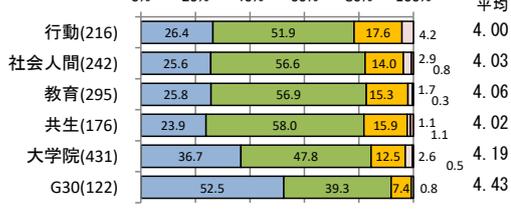
4. 授業内容はよく理解できましたか？



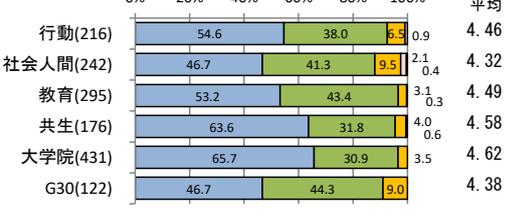
9. この授業で学問的知識が身についたと思いますか？



5. 授業内容、学習方法などのシラバスの内容は授業の内容を知るのに役立ちましたか？



10. この授業は全体として良い授業だったと思いますか？



＜満足度上位の科目＞

問 10 より、満足度の結果を示す（有効回答数が 10 以上の科目のみ）。平均値が高いほど受講生の満足度が高いことを意味する。アンケート対象科目 203 科目のうち、有効回答数が 10 以上の科目は 53 科目であり、平均値 4.39 を上回ったのは 32 科目であった。

2023 年度春夏学期講義科目

満足度上位の科目一覧

【学部】

	科目名	有効回答数	問 10 平均値
1	グローバル化と文化	10	4.80
2	人間科学特殊講義Ⅲ	10	4.80
3	地域創生論Ⅰ	28	4.71
4	人間教育論	30	4.70
4	人間変容論Ⅰ	10	4.70
6	共生の技法Ⅱ	22	4.68
7	安全行動学演習Ⅰ	12	4.67
7	外国教育史	18	4.67
9	市民活動論	17	4.65
10	共生の人間学Ⅰ	24	4.63

【大学院】

	科目名	有効回答数	問 10 平均値
1	共生社会論特講Ⅱ	13	4.85
2	人類学特定演習Ⅰ	12	4.83
3	共生の人間学特講Ⅰ	16	4.69
4	比較発達心理学特講（心理的アセスメントに関する理論と実践）	12	4.58
5	安全行動学特講Ⅰ（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	28	4.57
6	共生行動論特講Ⅰ	16	4.44

3. 担当教員からのコメント

以下は、授業改善アンケート対象科目（ただし、基礎科目は除く）について、担当教員がアンケート結果も含めて授業を振り返ったコメントの一覧である。

【行動学系】

入戸野 宏

学部の講義科目については、総合評価は全体平均と同じだが、難易度については例年どおりやや難しいと答えられている。専門科目のため、これはやむを得ない。

一方で、授業方法と資料が十分に工夫・準備されていたかという問いには、全員が「そう思う」「とてもそう思う」と答えており、これまでの授業改善努力は功を奏しているといえる。

学部演習や実験実習、大学院の講義科目や演習については、ほぼ例年どおりの結果であり、適切に実施されていることが確認できた。

山本 倫生

一度講義や演習を受講しただけでは統計学の理論的な部分まですべてを理解することは困難ですが、受講者は各自でしっかりと取り組み、授業内容を習得していたように思います。今後学習を継続することでさらに理解を深めていくことを期待しています。

三浦 麻子

春夏学期は学部講義科目がなく、ほぼ自研究分野のみが履修者の演習・実習科目が評価の対象でした。そのため、集計結果をどう活用するかは難しいところです。実施者にも回答者にも「アンケート疲れ」をもたらさないよう、授業改善アンケートの改善を試みたいと思いました。

鹿子木 康弘

アンケート結果を見ると、演習系の授業では、各項目ともおおよそ高い評価を得ているようである。難易度においても、適切な評価を得ており、内容に関しては特に問題ないと思われる。講義系の授業も、おおむね比較的高い評価を受けている。しかし、講義系の授業では予習・復習の時間が短い学生が散見されたので、次回はこの点に注意して、授業を進めたい。

中井 宏

心理学実験：豊中開講を増やしてほしいとの要望が2件あったが、TAの確保を考えると、対応は難しい。

産業心理学：例年、育休の方が受講されるが、オンライン併用は有り難いとのことであった。何かしらの事情で対面のみで講義が難しい受講生が想定される場合は、今後もハイフレックス型で開講したい。

篠原 一光

いずれの授業も例年との違いはほとんどなく、特段の問題も見られなかった。今後も同様の内容での授業を続けたいと考えている。

青野 正二

学系別集計（全体）の結果において質問 1～10 の質問別得点の分布を見ると、学系間ではある程度の差異があるものの、学系ごとの平均値はほぼ同じくらいであると思われる。つまり概ね学系のバランスがとれているといえるだろう。そこで、担当科目の質問別得点の平均値が、それと同等であるか、あるいはどれくらい離れているかに着目すれば、今後の授業の改善に役立つと思われる。

山田 一憲

演習科目や実習科目について回答をもらいました。演習科目は、過去の先行研究や現在のトレンドや課題から、新しい問いを立てる訓練をしてもらいたいと考えて開講しています。実習科目については、安全に正確にデータを収集して解析する技術を身に付けてもらいたいと考えて開講しています。これらの方針がさらに明確になるように、授業を改善していきたいと思います。

【社会学・人間学系】

吉川 徹

授業評価アンケートは毎回配布実施しています。

ただし、合わせて社会調査データ収集という観点から、本部局が実施している授業評価アンケートの有効性を受講生各自がよく考えて判断するようにと指導しています。その結果、当該学期もまた提出者がありませんでした。教員回収で提出者が数名である場合、だれの回答かわかってしまうという危惧もあるのかもしれませんが。授業への評価は、匿名アンケートではない対面の形で直接フィードバックを受けています。

福岡 まどか

授業に関するご意見ありがとうございました。

人類学特定演習Ⅰと特別演習Ⅰについては、コメントや質問をしやすい環境であるとの意見がありました。今後もそうした環境を実現できるように授業をすすめていきたいと思います。疑問点や分かりにくい点などについても説明しつつ、さまざまな情報を共有しながら今後も活発な議論が展開できるように努めていきたいと思います。

グローバル化と文化Ⅱについては、今年度より始まった4日間の集中講義ですが、皆さんの満足度が高かったようで、とても良かったと思います。各日の授業の進め方(午前中講義→コメント提出→それをもとにしたディスカッション→ワークショップ)は好評だったので、今後も続けていきたいです。講演会や施設見学などの内容についても、今後また新しいものを含めていきたいと思います。

白川 千尋

「現代社会の課題」に関して、マイクの接続障害など教室の設備に関する複数の要望をいただきました。改善されるようにこちらからも要望を出します。

野尻 英一

アンケートへのご回答ありがとうございます。授業環境の改善に取り組んでいきます。アンケートとあわせてご指摘の多い、教室の不足（余裕を持って着席できる環境がほしい）については、中期的な課題として、整備していく予定です。

村上 靖彦

具体的なものでは質的研究の学問背景を説明をというコメントを頂きました。授業内容の改善に努めたいと思います。

【教育学系】

佐々木 淳

臨床心理学特講Ⅰ 目的とする見立ての技術の習得やその他の事項の学習が十分になされたように思われました。今後も内容の充実をはかりたいと思います。

園山 大祐

難しいテキストに挑戦いただき、ありがとうございました。学生同士、学生と教員のディスカッションがとても有意義でした。

管生 聖子

アンケートへの回答ご協力ありがとうございました。みなさん熱心に授業を受けていらしてそれぞれに学びを深めていらっしゃるがよく分かりました。

老松 克博

いくつかの科目を単独ないしは何名かで担当しました。いずれについてもだいたい平均的なところだという評価をいただきました。臨床心理学の授業は、臨床的なものになればなるほど予習が難しいですし、復習も特殊な一回性を帯びた内容のなかから普遍的な知識や知恵を抽出する必要があるため容易ではありません。しかし、それこそが臨床の魅力であり面白さでもありますから、そのつどの驚きや不可解さをたいせつにしていきたいものです。

西森 年寿

実験実習についてはシラバスに関して低い評価がつけました。記述が悪いのだとは思いますが、、、なかなか具体的な対応が思い浮かばないところです。大学院科目は理解が難しいという評価がありました。質問などを通して調整したいと思っていましたが、なかなかそれは難しいのかなというのが反省です。レベルの調整を柔軟にできるような工夫を考えたいと思います。

野村 晴夫

概ね及第点でしたが、今後、予習・復習のさらなる充実に努めます。

岡部 美香

ご回答をありがとうございました。これからも、議論をしたり、自分たちで調べたり志向したりする参加型・探究型の授業を心がけていきたいと思います。

荒牧 草平

平均と比較すると予習時間がやや多い傾向にありました。少し難しい内容だったのかもしれませんが、授業での様子から、しっかりと予習・復習をして取り組んでくれたことがわかりました。授業後に理解不足とならないよう、今後もしっかり指導していきたいと思います。

藤川 信夫

調査項目2を除けば、概ね予想した通りの結果でした。卒論、修論の作成にかかる時間を最優先して指導を行っているため、予習・復習については無理のない程度に控えてきた結果だと思えます。

木村 涼子

<現代日本の教育問題>学部2年生向けの選択必修科目であるが、登録数に比べて回答者数少ないため、回答依頼をもっと丁寧にするべきだったと反省している。授業内容の理解度や感想全般はおおむね良好だと考えるが、そもそも回答者が少ないため、全体の評価を反映できているのかどうか、疑問が残る。

<教育社会学特講> 少人数の大学院の授業だったので、教員として得ていた手ごたえと、アンケート結果がおおよそ合致していた。ただ、学問的知識がみにつきたかという設問については「強くそう思う」より「そう思う」が多かったので、今後として踏まえていきたい。

野坂 祐子

興味関心をもって受講された方が多く、自己学習の時間もかなり長くとられていたようで、よかったです。積極的に発言いただいたおかげで、学びも深まったと思います。

高田 一宏

実習・文献講読が中心の科目が調査の対象だったため、2（予習・復習の時間）は高めだった。ただし、受講者は数人～10数人なので、数量的に結果を分析することにほとんど意味はない。

【共生学系】

千葉 泉

学生との間のコミュニケーションをさらに改善することで、授業に関する彼らの意見や希望、アイデアを積極的に把握し、迅速にフィードバックを行うことで、受講生のニーズにより対応した授業の構築に努めたいと思います。

宮本 匠

「共生の理論と実践」は共生学系の4分野の話題について、担当を分けてグループディスカッションと発表を行うものだったが、今年度はどの分野を担当するかについて、予め教員側で決めて行った。結果、そのことに大きな反論はなかったが、やはり自分の興味に応じて選びたいという声もあったので、次年度以降の授業の進め方に反映させていきたい。

稲場 圭信

全体的に満足という回答が多く、関心をもって授業に参加してくれたことを嬉しく思います。授業形態も含めてまた工夫をします。

近藤 和敬

学生の評価がわかってよかったです。おおむね良好なので安心しました。

中井 好男

受講生のみなさんに「他人事」への「接触」の時間を読む・書く・聞くを通して設けました。その中でそれぞれに思うこと、考えることがあったと思います。しかし、インプットの時間や考える時間など、急ぎ足になった部分もあり、みなさんには少々負担をかけたのではないかと感じています。もう少し皆さん声じっくり拾えるようなゆとりを持った構成に改善しようと考えています。

澤村 信英

春夏学期は、演習や実験実習中心の授業であった。したがって、受講生にとっては、与えられた課題をもとに、自ら学び、また受講生同士が学び合う態度が必要になる。その中で国際協力学演習Ⅰに関して、予習・復習の時間が平均より低く出ているのは、この時間を卒論生との交流学习の場としているため、その分3年生にとっては負担が少なくなっているからであろう。

【その他（学系外）】

*附属未来共創センター

杉本 めぐみ

授業運営以前の問題で上長等からの講義や学生評価のサポートが全く無く、新任教員に学生便覧の配布等もなく、複数担当教員として登録されずに全ての講義が終わり、講義情報を取得するのが1年目、非常に困難だった。例えば、4/6担当の学際特講終了後、半年たっても前任者名のままで教員登録すらされていなかったのので、担当教員の一員であるにもかかわらずKOANでも情報が入ってこないことが10/20に教務に相談に行って判明した。そのため本アンケート結果も「回答のあった授業をご担当の先生方のメールアドレスに、集計結果を投函させていただきました。」というデータの入手もできていない。

上長や同僚のレベルや配慮次第で、新任教員として受けられるサポートにあまりにも差があるので、所属から独立して研究科として一定レベルのサポートや教務に行くよう4月に示唆が欲しい。

*国際交流室

安元 佐織

全体として、学生の「出席率が高く」、かつ「授業内容に興味関心を持てる」「学問知識が身に付いた」と感じていることが分かり喜ばしく思いました。予習復習にあてる平均時間がもう少し長くなるような課題があっても良いかもしれないとも思いました。
--

2023年度前期 人間科学研究科／人間科学部 授業アンケート回答結果 計33名分